

い し けっ て い 意思決定 について



い し けっ て い 意思決定について

治療方針を決める上で最も重要なことは、「**患者さん本人がどうしたいか**」ということです。もし何らかの理由で患者さん自身が意思を伝えることができない場合は、家族などが患者さんの意思を推定して代弁する必要があります。

体の具合や環境の変化などによって、どうしたいかという考えが変わることは自然なことです。そのため、**一度方針を決めたとしても、何度でも変更していただいて結構です**。ただ、どうしてもして欲しいこと、して欲しくないことがあれば、早めに正確に伝えておいたほうがよいでしょう。

最も避けるべきことは、患者さんが望んでいなかった選択をしてしまうことです。特に問題となるのは人工呼吸器(TIV)の選択です。TIVは一度装着すると外すことが難しいため、その後の人生に大きく影響を及ぼします。急に呼吸がつかなくなったなどの緊急時に、患者さんの意識がはっきりしているとは限りません。もし意思が確認できない場合は、医師は命を救うために人工呼吸器を装着します。

いざという時に慌てることにならないように、信頼できる周囲の人達や支援するメンバー(主治医や看護師、療法士、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、保健師など)としっかり話し、**どのような選択を取りたいのかという意思を全員で共有するようにしてください**。